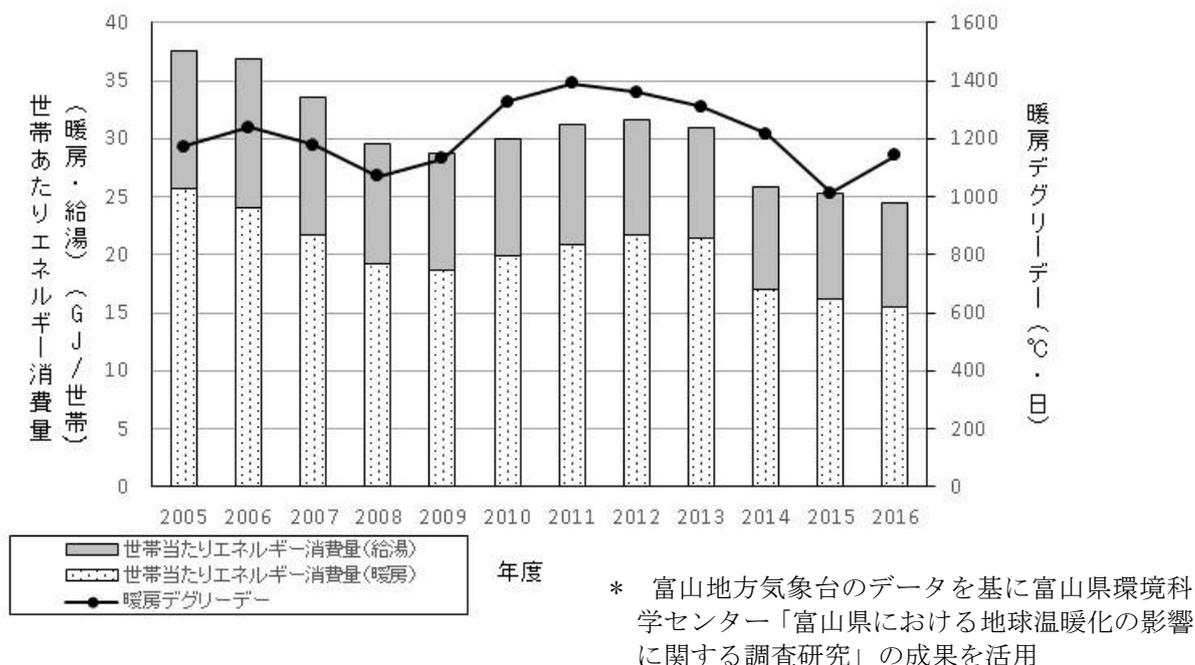


## 第1回地球温暖化対策小委員会でのご意見の概要と回答

No.	ご意見の概要	回答
1	<p>2013年度から2014年度にかけて家庭部門におけるエネルギー消費量（特に、燃料種別では灯油、用途別では暖房）が減少している原因は何か？</p> <p>ヒートポンプ型の高効率暖房機等の導入が進んだ結果の可能性はあるか？</p>	<p>2013年度から2014年度にかけて家庭部門におけるエネルギー消費量が減少している主な要因としては、別紙1の1に見られるとおり、暖冬の影響が考えられます。</p> <p>また、県内におけるヒートポンプ型のアエアコン等の普及台数については、該当するデータを見出せませんでした。給湯器については同資料の2にお示しするとおり、段階的に増加しており、このようなエネルギー消費機器の効率化もエネルギー消費量の削減に寄与しているものと考えられます。</p>
2	<p>世帯あたりの自動車保有台数の推移はどうなっているか？</p>	<p>別紙2に見られるとおり、2015年度までは概ね増加傾向にありましたが、2016年度に減少に転じています。</p>
3	<p>ニホンジカについても、適応策として盛り込んで欲しい。</p>	<p>適応策として、自然環境破壊や農作物被害などを引き起こすイノシシ、ニホンジカなどの個体数の適正な管理について、盛り込みました。</p>
4	<p>富山県らしさとは何か？</p>	<p>緩和策については現行計画に引き続き、再エネの導入促進、森林吸収源対策に加え、環境配慮行動の普及啓発に努めることとしております。</p> <p>また、新たに拡充する適応策については、水稲品種の開発・普及、地下水資源の適正利用の推進、雪対策等を掲げております。</p>
5	<p>SDGsの視点を盛り込むべき</p>	<p>計画に掲げる緩和策、適応策の方向性が、SDGsの方向性に合致し、SDGsの考え方に配慮しつつ計画を推進する旨明記しました。</p>

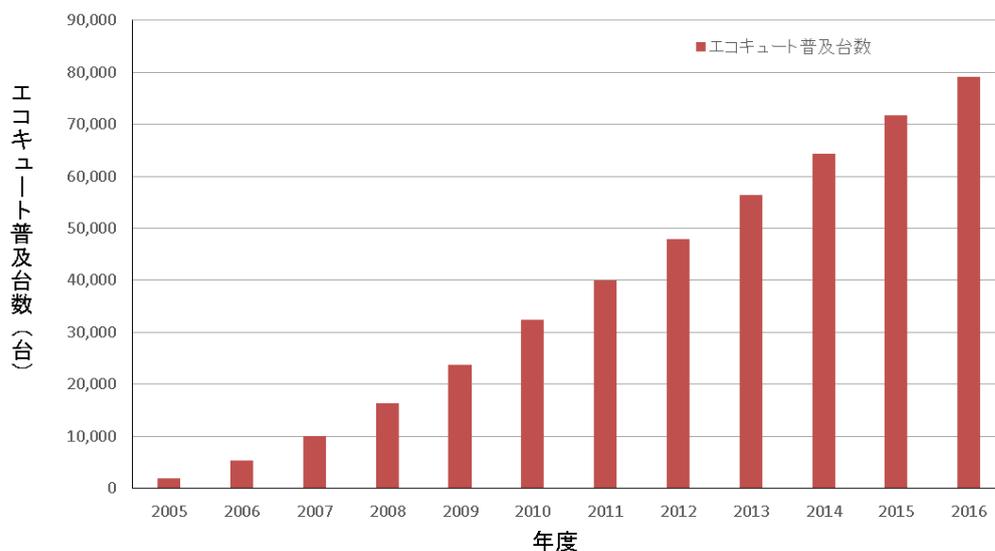
## 暖房デGREEデー及びエコキュート普及台数について

### 1 民生家庭部門における世帯当たりエネルギー消費量（暖房・給湯）と暖房デGREEデー（※）について



※ 暖房デGREEデー：日平均気温が 10℃以下の日を暖房期間とし、この期間内の日平均気温と基準気温 14℃との差を積分したものである。暖房に要する熱量を見積もるための指数として用いられる。(出典：国土交通省ホームページ ([http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/iten/information/council/shuto-research/c\\_kfh/c\\_kf15.html](http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/iten/information/council/shuto-research/c_kfh/c_kf15.html)))

### 2 富山県内におけるエコキュート普及台数について

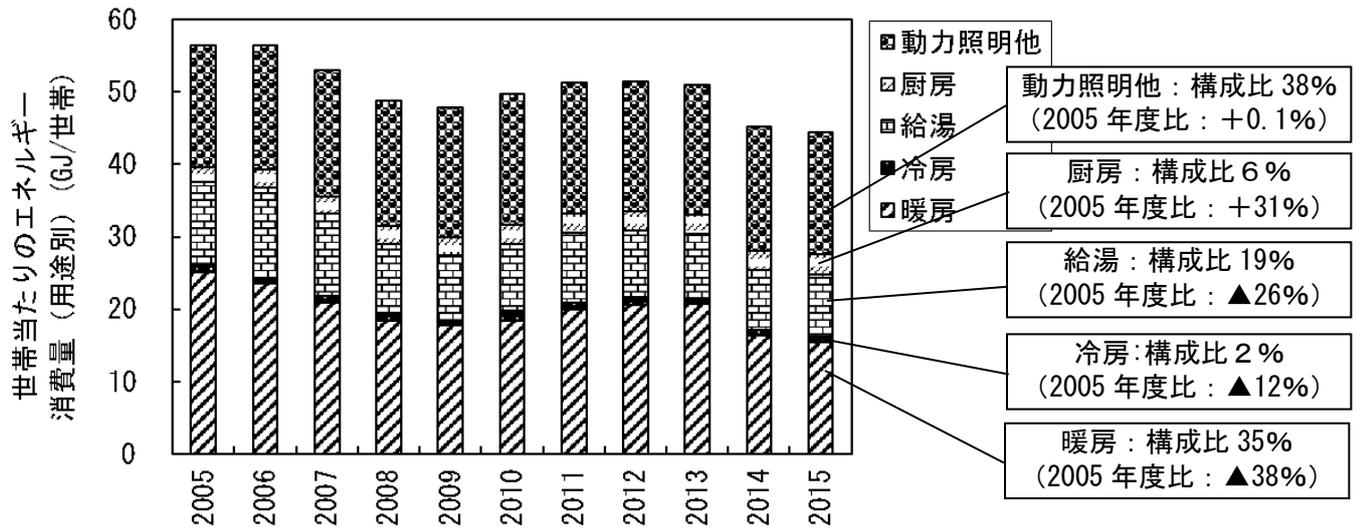


\* 北陸電力株式会社からの提供資料を活用

**3. 民生家庭部門のCO<sub>2</sub>排出状況**

(4) 世帯当たりのエネルギー消費量及びその用途別構成比の推移

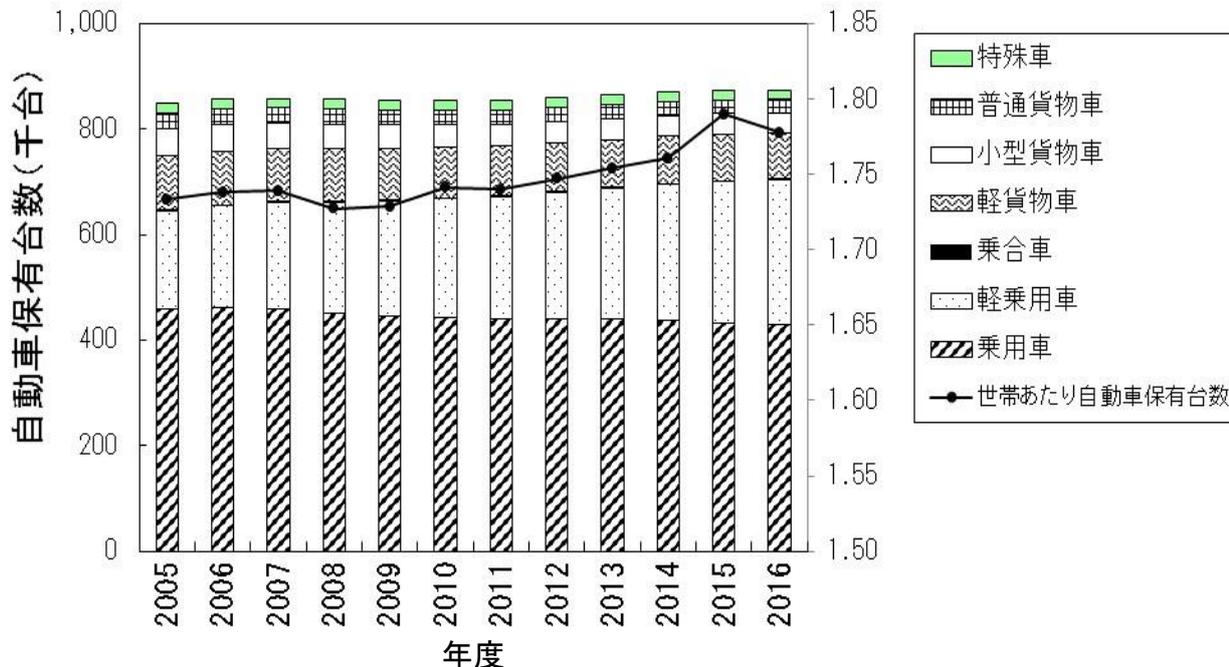
世帯当たりのエネルギー消費量では、動力照明他が38%と最大を占め、基準年度との比較では、暖房・給湯においてエネルギー消費量の削減が進んでいる。



※ 一般財団法人日本エネルギー経済研究所からの提供資料を活用

## 世帯あたり自動車保有台数の推移について

### ○ 世帯あたり自動車保有台数（※）の推移について



※ 世帯当たり自動車保有台数：乗用車及び軽乗用車の保有台数を世帯数で除したものを世帯当たり自動車保有台数とした。

### 【参考】委員ご意見に係る第1回小委員会資料（抜粋）

#### 4. 運輸部門のCO<sub>2</sub>排出状況

##### (3) 県内の自動車保有台数及びその車種別構成比の推移

自動車保有台数では、乗用車及び軽乗用車が81%を占めており、基準年度と比較すると、特に軽乗用車が50%近く増加している。

